



市内で活動する母子保健推進員に事例を紹介する蓮田さん

— 宇城市母子保健推進員研修会を開催 —
子育て家庭に寄り添う大切さを学ぶ

12/12 不知火防災拠点センターで行った同会で、「こうのとりゆりかご」を運営する慈恵病院の蓮田健理事長兼院長が講演。命を懸けてでも妊娠や出産を隠し通さざるを得ない女性たちをテーマに話をしました。参加者は「本音話せる人がいることで、救われる命があると思った。」など、推進員活動への思いを新たにしていました。



堤所長(右)からビッグファンを受け取る高木校長(左)

— 三井住建道路(株)九州支店熊本営業所が地元貢献 —
松橋支援学校へビッグファンを寄贈

12/12 松橋町にある同所(堤輝彦所長)が同校へビッグファン3台を寄贈しました。堤所長は「体育館の熱中症対策やコロナ対策の換気に必要と伺い、地域への恩返しの気持ちで贈らせていただきました。今後も役に立てることがあれば協力したい。」と話し、高木佐由理校長は、「これからたくさん活用していきます。」と喜んでいました。



受賞した野中さん(中央左)と田上さん(中央右)

— 宇城管内消防団員意見発表会 —
消防団活動の更なる活性化を目指して

11/18 同発表会がウイングまつばせで3年ぶりに開催され、宇城管内から選抜された5人の団員が業務への提言や取り組みたい課題などを発表。小川町の田上総一郎さん(28)が優秀賞を受賞し、松橋町の野中志真さん(54)が入賞しました。田上さんは「消防団は地域の心を守る要。これからも地域のために活動していきたい。」と述べました。



若城金物店の木造2階一部平屋建ての瓦ぶき店舗兼主屋

— 戦前から残る、小川町商店街最大最古の建物 —
若城金物店が国の有形文化財に登録

10/31 小川町にある「若城金物店の店舗兼主屋、厨房、納屋、蔵」が国の有形文化財に登録されました。同店は、江戸時代末期に宿場町として栄えた小川町商店街にあり、伝統的な町家の中で最も大規模で古い建造物。太平洋戦争前から営まれ、創建時の状態をほぼ維持しながら国土の歴史的景観に寄与していることが評価されました。



マシュマロ焼き体験では家族連れでにぎわいました

— 戸馳島の魅力を伝えるとばせマルシェ —
地域の刺激になるようなイベントを

12/18 三角町の若宮海水浴場で、県内の絶品グルメを販売する16店舗が集結し、とばせマルシェが初開催されました。これは、戸馳島の良さを知ってもらい地域振興につなげたいと、Tobase Laboの中川裕史さん(26)が企画。雪がちらつく寒い中、ジビエ料理や手作りカレーも提供され、たくさんの方が楽しんでいました。



率先して作業を行う井上隊員

— 陸上自衛隊が市文化財竹崎城跡周辺を竹刈り —
出身隊員が地元貢献の思いも込めて発案

12/16 松橋町の竹崎城跡で陸上自衛隊西部方面航空野整備隊が周辺の竹を刈りました。これは地区の要望と、訓練などで竹が必要な同隊の思いが一致し実現したもの。地元出身の隊員井上剛嘉さん(40)は、「地震や地域の若手不足の影響で変わってしまった竹崎城跡。このような形で地元へ貢献できるのはとてもうれしい。」と話しました。



演目披露のうき神輿の皆さん 募金箱(上)はその家族が作成

— 復幸祭で募金活動 —
募金を地域福祉活動へ寄付

12/9 11月13日にウイングまつばせで開催された復幸祭で募金活動が行われ、市の地域福祉活動に全額寄付されました。復幸祭は熊本地震やコロナ禍などからの復興を願い、「多くの人に元気を与えたい」と宇城市塗装防水組合代表の岡良さん(68)が企画。会場内では松橋高生やその他ボランティアが協力して募金活動を呼び掛けました。



守田市長に目録を渡す宮崎さん(右)

— 宮崎さんが小・中学校に図書カードを寄贈 —
受章の感謝の気持ちで地元へ恩返し

12/1 小川町の(有)宮崎商店代表取締役の宮崎信彦さん(71)が市役所を訪れ、守田憲史市長に図書カードを贈呈しました。宮崎さんは、長年教科書供給業に精励した功績として、昨年黄綬褒章を受章。「地元へ感謝の意を表したかった。」と述べると、守田市長は「図書室の蔵書を充実でき、子どもたちも大変喜ぶと思います。」と感謝しました。